

美の魅力にあふれる滋賀を

みんなの美術館に

それぞれの地域に多様で豊かな美の魅力が満ちあふれている滋賀は、県全体がいわばひとつの「美術館」。

リニューアルする「滋賀県立美術館」と「新・琵琶湖文化館(仮称)」を核として、滋賀の美の魅力を広く発信します。

Beautiful SHIGA

かわる かかわる ミュージアム

滋賀県立美術館

2021
6/27日
再開館

滋賀県大津市瀬田南大萱町1740-1

VOL.01
湖国の調べ
Lakeside Melody

公園の中の「リビングルーム」に

生まれ変わって再開館する「県立美術館」が目指すのは「リビングルーム」のような美術館です。入場自由のエントランスはソファやベンチを増やし、カフェも併設します。「公園にきたついでに」くらい気軽に美術に触れてみてください。

新たにキッズルームを設け、親子向けのワークショップなども開催予定です。なるべく早い年齢から美術に親しみ、見たり創ったりする楽しさを知ってほしいと願っています。

滋賀にはまだまだ知られていない、すばらしい美術がたくさんあります。例えばオーピング展の「桑実寺縁起絵巻」は近江八幡の寺に伝わる重要文化財で、知る人ぞ知る室町期の絵巻の名品です。

蒲生(東近江市)の洋画家・野口謙蔵は、東京美術学校を卒業するとすぐ郷里に戻り、身のまわりに画題を見出し、その生き方は、現代の私たちの心に響くものがあります。このような新たな視点で、小倉遊亀や山元春挙、現代アートやアール・ブリュットなど、おなじみの滋賀の美についても紹介していきたいと考えています。

滋賀に着任して、毎朝、琵琶湖を眺める暮らしが始まりました。自分が落ちこんでいるときには琵琶湖に癒やされたり、浮き立つ気持ちを静められたり、自然との対話が生まれる経験は初めてのこと。東京ではできない体験を日々重ねています。



滋賀県立美術館
ディレクター(館長)
保坂 健二郎さん

1976年生まれ、2021年より現職。慶應義塾大学大学院修士課程(美学美術史学分野)修了。2000年から2020年まで東京国立近代美術館勤務。主な著作に『アール・ブリュットアート 日本』(監修、平凡社、2013)など。『すばる』の連載など、芸術についての寄稿多数。

Renewal

滋賀県立美術館をチェック!

ココが新しくなった!

Shiga Museum of Art

ショップ

滋賀県産の素材を活用した
テーブルやベンチ

カフェ



賑わいのある美術館へ

ウェルカムゾーン【エントランス・ロビーおよびその周辺】



みんなにやさしく使いやすい

- 授乳室や親子で使えるファミリートイレの新設、各トイレの全面改修(洋式化)
- 誰もがわかりやすい案内表示への更新



人と作品の安全を守る

- 万一の場合も作品を守るガス消火設備を各展示室に導入
- エントランス・ロビー天井の耐震化
- 老朽化した屋根や空調機器の更新、防火シャッターの改修
- セキュリティ向上のための扉新設や電子錠設置
- 感染症対策(サーモグラフィーカメラの設置、洗面所の自動水栓化)の導入



作品の魅力をもっと楽しめる

- 各展示室内装(天井・床・壁面)の張り替え
- 作品を守り演出効果の高いLED照明の導入、快適な鑑賞のための壁面ガラスケースの低反射施工
- ギャラリーの展示壁クロス張り替えとスポットライト導入



授乳室



展示室



キッズスペース/くつろぎルーム



NEW! ビジュアル・アイデンティティ (VI)

再開館にともない、「わかる かかわる ミュージアム」のコンセプトにもとづいてロゴマークを一新しました!



お問合せ 県立美術館

TEL 077-543-2111

FAX 077-543-2170

e info@shigamuseum.jp

出会い・学び・
交流や賑わいを創出!!
アートにどぼん!

滋賀県立美術館

かわる かわる ミュージアム

アートを通じて感じる社会や環境の多様性

4つの軸でつくる滋賀モデル

「創造」と「問いかけ」

「地域」と「学び」

滋賀を中心に創造の場を支え、これまで以上にユニークなコレクションをつくりあげます。

「滋賀っておもしろい!」とみんなが言いたくなる地域の多様な魅力をリサーチして広く発信します。



アートにどぼん!

館内外、公園内で子どもがアートやものづくりの魅力を体験できるワークショップを定例開催します。

※画像はイメージです



アートに触れることを通じて、変わりゆく社会や環境の多様性をより深く感じられる場をつくること—これが、いま美術館に求められるミッションです。

こう考える滋賀県立美術館は、これからさらに大きく変動していく社会に対して、柔軟にかわりながら、かわり続けることを目指します。

オープニング展覧会

会期：2021年6月27日(日)～2021年8月22日(日)

企画展

Soft Territory かかわりのあらい

「コミュニケーション」をキーワードに滋賀ゆかりの若手作家12人が制作した、ガラスや石など様々な表現による新作を展示します。

常設展

ひらけ! 温故知新

—重要文化財・桑実寺縁起絵巻を手がかりに—
絵巻の宝庫・滋賀が誇る名品の一つ「桑実寺縁起絵巻」(桑実寺所蔵)を拝借し、この作品を糸口として当館の収蔵品を紹介します。

お得です!

滋賀県美メンバーズ

年会費 2,400円

お問合せ 県立美術館

e info@shigamuseum.jp

展覧会を何度でも観覧できます! 6月27日から受付開始します。

TEL 077-543-2111

FAX 077-543-2170



「美の魅力発信プラン」がスタートします!

「しがの美めぐり たのしみ・つながる美の魅力」では、様々な美を楽しめるスポットや、取り組みを紹介します。

それぞれの地域にありのままの形で存在し続けていることに、「滋賀の美の魅力」があります。琵琶湖を中心とした自然美、大切に守り伝えられてきた文化財、伝統工芸などのくらしに根付いた美意識、県内アーティストによる創作や、美術館で触れる先端的な芸術など、滋賀にあふれる多様な美の魅力を発信していきます。

1. 交流や発信の場づくり

生まれ変わった県立美術館で、美の発信に関する総合センターが活動を始めます。

地域や関係分野の皆さんとともに滋賀の美の魅力を国内外に発信し、新たな文化的価値を創造していきます。

2. 多面的な発信

MIHO MUSEUMや佐川美術館、琵琶湖博物館、県博物館協議会加盟館などと連携して、県内各地から幅広い情報を発信していきます。

3. 美術館改革

県立美術館はリニューアルオープンを機に生まれ変わります。

澤田 真一《無題》
滋賀県立美術館蔵



薬師如来立像
聖衆來迎寺蔵



【信楽焼】
信楽 大壺
滋賀県立陶芸の森
陶芸館蔵

4. 琵琶湖文化館のリスタート

近江の文化財の保存・継承・活用・発信の中核拠点として整備を進めます。

琵琶湖文化館

ご存知ですか?
琵琶湖文化館



大津市打出浜の湖中に建つ琵琶湖文化館は、昭和36年(1961)に開館した博物館、美術館、水族館、植物園、プールなどを備えた総合レジャー施設でした。その後、美術館や水族館の機能を他館に移し、現在は歴史的文化財の殿堂として活動しています。現在、この琵琶湖文化館の再整備事業が進行中です。



叡山図(曾我蕭白筆)
琵琶湖文化館蔵



金銅透彫華鬘
長命寺蔵



帝釈天立像
正法寺蔵

県内社寺などからの寄託品をはじめ、国宝や重要文化財など貴重な文化財を数多く収蔵しています。

令和9年度
浜大津への
移転・新築を
目指します。

(仮称)新・琵琶湖文化館の 整備が始まります!



(仮称)新・琵琶湖文化館の使命・役割として第一に求められていることは、地元へ伝えられてきた豊かで多様な文化財の公開・展示を通じ、それらの魅力を県民の皆さんに改めて知ってもらおうとともに、そこに育まれてきた湖国文化の懐の深さと広さについての学びの機会と場を提供することにあると考えます。

また、市町の関係部署や博物館との連携のもとで、地域文化財の調査・研究を推進し、把握に努めるとともに、その適切な保護と保存、公開と活用の望ましいありようについての助言、あるいは、地域に根ざした人材育成への支援にも期待したいと思えます。



青山学院大学 教授
津田 徹英さん
近江八幡市出身。
専門は日本の古代中世宗教美術。

近江の文化財を中心とするミュージアム

近江の文化財を保存、継承するサポートセンター

県内文化観光の拠点・ビジターセンター



京阪電鉄浜大津駅前、
琵琶湖や比叡山を望むロケーション!